

外国人定住者の親子、ベトナム難民年少者の日本社会への
適応について

—日豪の比較を通して、現状と将来の諸課題を検討する—

(財) 社会安全研究財団研究助成報告書

平成 12 年 3 月

21 世紀の共生社会を考える会

はじめに

この研究調査は、平成12年度の財団法人社会安全研究財団からの研究助成金によって行われたものである。近年急増する定住外国人及びその家族、とくに少年を巡る諸問題（いじめ、非行、犯罪等）が注目されてきているが、本事業は、彼らを取り巻く環境である、家庭やコミュニティ（学校や地域社会）を調査対象とし、その実態を明らかにするとともに、「日本における外国人との共生」を取り上げ、その共生を妨げる心理・社会的要因を調査し、問題点の指摘と対策を検討することを第一の目的とする。加えて、他民族国家として、外国人との共存をはかっているオーストラリアでの取り組みや実態調査をすることにより、両国の比較研究をする狙いもある。「同様の問題をすでに経験した国に学ぶ」という観点から、多民族多文化主義を標榜するオーストラリアの現状について調査することは、グローバルな共生を考える上で、意義があるといえる。調査方法としては、大都市圏で定住する特定の外国人子弟に焦点を当て、地域社会への適応の状況、学校への適応状況をアンケートや面接調査によって調査し、問題行動の実態調査、対策への探求を試みた。加えて、オーストラリアにおいても、同様な条件の都市を選定し、調査を行った。調査の結果、多民族国家のオーストラリアにおいても、わが国同様、定住外国人を取り巻く諸問題があることが判明した。しかし、その質がわが国とは同じではないことも同時に明らかになり、そこに社会的な異質性が関与していると推察された。

我々は、今回の調査を基盤にして、今後もいくつかの国で調査を続けていき、共生社会と定住外国人の問題を掘り下げていきたいと考えている。

末筆になったが、この調査に協力して下さった、日豪のベトナム人コミュニティの方々、さらには、調査票に記入していただいた多くの学生諸君にこころからの御礼を申し上げます。

平成12年3月

21世紀の共生社会を考える会

代表 早稲田大学日本語研究教育センター助教授

宮崎 里司